

リスク評価の考え方と手法¹

リスク評価の対象となった135の対象疾病(資料1-1)のリスク評価を実施するにあたり、家伝法、感染症法、OIEの指定で重複する疾病や病原体の血清型等により異なる種特異性、家畜に対する病原性の高低などによって異なる名称が与えられている疾病などの他、一部の疾病については便宜上、別紙1のとおり整理・統合し、リスク評価対象疾病数は118となった。

次に、各疾病の基礎的情報について関連機関のウェブサイトや成書などから収集し、疾病ごとに整理²した個票(議事1参考資料)及び各疾病の発生状況や発生した場合の影響の内容・程度を比較可能な形でとりまとめた一覧表(以下、「星取表」という)を作成した。

これら個票、星取表を活用して、対象疾病について①発生した場合の影響の大きさ、②発生の可能性の順に検討し、①及び②を組み合わせることで各疾病のリスクの高低を評価した。

1. 影響の大きさの考え方

疾病が発生した場合の影響の大きさについては、希少種(別紙2)への影響のあるもの、その他の野生鳥獣への影響のあるものにおいて表1の考え方に即して検討した。

表1 影響の大きさの考え方

影響の程度	希少種*	その他の野生鳥獣
大きい	<ul style="list-style-type: none"> 同種もしくは近縁種における集団死/大量死の報告がある 同種もしくは近縁種で死亡が報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 同種もしくは近縁種における個体群レベルの壊滅的な影響が報告されている。
中程度	<ul style="list-style-type: none"> 同種もしくは近縁種で繁殖障害**が報告されている 	<ul style="list-style-type: none"> 同種もしくは近縁種における集団死/大量死の報告がある
小さい	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外 	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外

* 希少種は国内希少動植物種を含む環境省レッドリスト掲載種のうち、CR種、EN種、VU種とし、その他の野生鳥獣は希少種以外の在来の鳥類及び哺乳類を対象とする。

** 繁殖障害：不妊・受胎率低下、死産、異常産、異常卵・産卵低下、生殖器異常等

2. 発生の可能性の考え方

今回のリスク評価では、リスク評価対象疾病を便宜上次の3つに区分した上で、発生の可能性について検討した。

- a) 病原体が国内に常在する感染症
- b) 発生はあるが病原体が国内に定着していない感染症

¹ 第1回検討会資料3-2と基本的に同じ。

² 情報が少ない場合、近縁の家畜の情報を参考にする。

c) 国内未発生（病原体が国内に存在しない）感染症（※）

※ ここでは2000年以降、国内で野生鳥獣、人、家畜での感染報告がないものとする。

なお、作業の効率化のため、上記1. で国内の野生鳥獣への影響が小さいと評価されたものについての発生の可能性の評価を割愛した。

(1) 病原体が国内に常在する感染症及び発生はあるが病原体が定着していない感染症

上記 a) b) に該当する疾病については、表2の考え方に即して検討した。

表2 国内発生状況に基づく発生の可能性の考え方

発生可能性	常在 a) の感染症	未定着 b) の感染症
極めて高い	国内の野生鳥獣で一定の有病率が報告されているか、過去5年の間に国内の野生鳥獣の感染が報告されている。	過去5年の間に国内の野生鳥獣の感染事例が報告されている。
高い	過去5年の間に野生鳥獣以外の国内の動物（生産動物、ペット、媒介生物）の感染／保有事例が報告されている。	過去5年の間に野生鳥獣以外の国内の動物（生産動物、ペット、媒介生物）の感染／保有事例が報告されている。
ある	5年よりも前に国内の野生鳥獣の感染事例が報告されている。	過去5年間の報告はないが、関連機関により侵入が警戒されている
低い	上記以外	上記以外

(2) 国内未発生の感染症

上記 c) に該当する疾病については、以下のとおり検討した。

- 家伝法又は感染症法による指定が行われている感染症
関係機関による侵入の警戒状況を指標とする（表2）。
- それ以外の感染症

表3の事項を考慮し、病原体が国内に侵入する可能性、国内の野生鳥獣が病原体に曝露される可能性について可能な範囲で検討する。

表3 発生可能性の評価における考慮事項

発生可能性の要素	考慮事項
病原体が国内に侵入する可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国外の発生状況（病原体の分布） ・ 国内への侵入経路（家畜・畜産物・飼料等の輸入、野鳥による病原体の運搬等）
野生鳥獣が病原体に曝露される可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染する可能性のある野生鳥獣、媒介動物（分布、生態等） ・ 感染様式（ベクターの有無、空気感染／経口感染／直接接触感染等） ・ 病原体の特性（環境中で感染性が維持される期間）、等

(3) リスク評価

上記(1)、(2)の検討結果に基づき、リスク・マトリクス(図)に即して、各疾病のリスクの高低を推定した。赤くハイライトした部分に該当する疾病が、生物多様性保全の観点から対応優先度の高い感染症の候補とした。

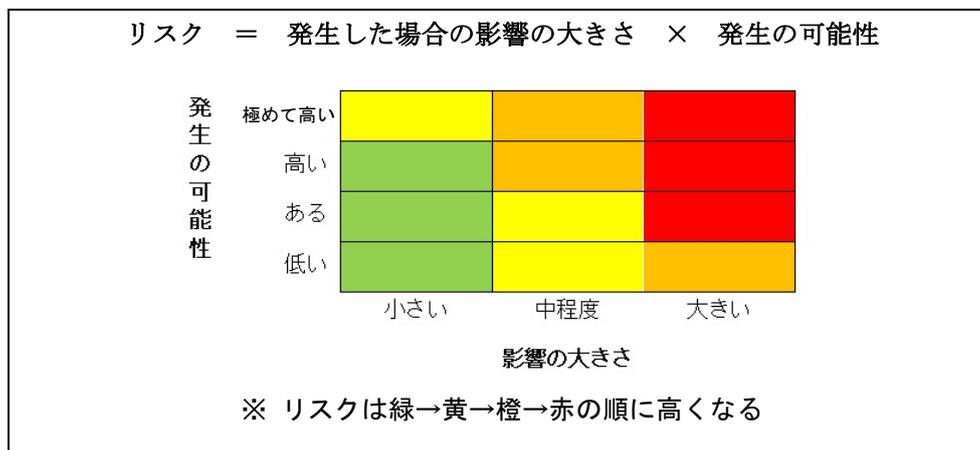


図 リスク・マトリクス

整理・統合した疾病一覧

統合・整理した疾病名	個別疾病名	病原体	感染動物	ベクター	家畜衛生		公衆衛生	OIE	
					家伝法*1	対象家畜	感染症法*2	リスト疾病	非リスト疾病
パスツレラ症（家きんコレラ、出血性敗血症を含む）	出血性敗血症 (<i>P. multocida</i>)	<i>P. multocida</i>	シカ、カモシカ、イノシシ	－	家畜	牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし	－	○	○
	家きんコレラ (<i>P. multocida</i>)	<i>P. multocida</i> (鶏、あひる、七面鳥、うずらが急性敗血症を起こして70%以上死亡する場合、家きんコレラとして法定伝染病に指定されている)	ほとんどすべての鳥類。多くの哺乳類にも感染。	－	家畜	鶏、あひる、七面鳥、うずら	－	－	○
	パスツレラ症（野生動物、出血性敗血症、家きんコレラを含む）	<i>P. multocida</i> , <i>P. canis</i> , <i>P. pneumotropica</i> , <i>P. testudinis</i>	<i>P. multocida</i> : コウモリ、オオツノヒツジ、鳥類（ハクガン、タカ目、カモ目、ハト目、チドリ目、キジ目、ツル目、スズメ目、フラミンゴ目、ペンギン目、フクロウ目）、ラクダ、牛、イエネコ、山羊、アナウサギ、羊、豚、エルク、ヤブノウサギ、ダマジカ、霊長類（オマキザル、チンパンジー、マカク類、ヨザル、リスザル）、サイガ等 <i>P. canis</i> : オグロマーモセット (<i>Mico melanurus</i>)、イヌ。 <i>P. pneumotropica</i> : げっ歯類。 <i>P. testudinis</i> : カメ目	－	家畜	牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし（出血性敗血症）/ 鶏、あひる、七面鳥、うずら（家きんコレラ）	－	○	○
ウエストナイル熱（流行性脳炎の1つ）	ウエストナイル熱（流行性脳炎の1つ）	フラビウイルス科フラビウイルス属WNV	主に鳥類。ほかにシカ、コウモリ、リス等	蚊、ダニ	家畜（流行性脳炎）	牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし	4類	○	－
流行性脳炎（ウエストナイル熱をのぞく：日本脳炎、東部馬脳炎、西部馬脳炎、ベネズエラ馬脳炎）	日本脳炎（流行性脳炎の1つ）	フラビウイルス科フラビウイルス属日本脳炎ウイルス	鳥類、シカ、カモシカ、イノシシ	蚊	家畜（流行性脳炎）	牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし	4類	○	－
	東部馬脳炎（流行性脳炎の1つ）	トガウイルス科アルファウイルス属EEEウイルス	鳥類。牛、羊、豚、シカ、イヌで散発的な発生事例あり。	蚊					
	西部馬脳炎（流行性脳炎の1つ）	トガウイルス科アルファウイルス属WEEウイルス	鳥類、げっ歯類。	蚊					
	ベネズエラ馬脳炎（流行性脳炎の1つ）	トガウイルス科アルファウイルス属VEEウイルス	げっ歯類、鳥類。その他、キツネ、コウモリからのウイルス検出あり。飼養されているウサギ、イヌ、山羊、羊で死亡例あり。	蚊					

*1 家畜：家畜伝染病 届出：届出伝染病

*2 1類：一類感染症 2類：二類感染症 3類：三類感染症 4類：四類感染症 5類：五類感染症 新型インフル等：新型インフルエンザ等感染症

統合・整理した疾病名	個別疾病名	病原体	感染動物	ベクター	家畜衛生		公衆衛生	OIE	
					家伝法*1	対象家畜	感染症法*2	リスト疾病	非リスト疾病
OIEリスト疾病に含まれないポックスウイルス感染症（牛丘疹性口内炎、伝染性膿疱性皮膚炎、鶏痘を含む）	牛丘疹性口内炎	ポックスウイルス科、コルドポックスウイルス亜科、 <u>バラポックスウイルス属</u> の牛丘疹性口内炎ウイルス (bovine papular stomatitis virus)	カモシカ	-	届出	牛、水牛	-	-	○
	伝染性膿疱性皮膚炎	ポックスウイルス科 (Poxviridae)、コルドポックスウイルス亜科 (Chordopoxvirinae)、 <u>バラポックスウイルス属</u> (Parapoxvirus)、 <u>オルフウイルス</u>	シカ、カモシカ	-	届出	鹿、めん羊、山羊	-	-	○
	鶏痘	ポックスウイルス科、 <u>アビポックスウイルス属</u> 鶏痘ウイルス (Fowl poxvirus)	主に鳥類	-	届出	鶏、うずら	-	-	○
	OIEリスト疾病に含まれないポックスウイルス感染症（バラポックスを含む）	ポックスウイルス科、コルドポックスウイルス亜科のウイルス(牛丘疹性口内炎、伝染性膿疱性皮膚炎、鶏痘を含む。その他pigeon poxvirus, canary poxvirus)、Cowpox virus、Hare fibroma virus、Rabbit fibroma virus (RFV)、Sealpox virus、Squirrelpox virus (SQPV)、Swinepox virusなど)	鳥類、シカ、カモシカ、イノシシ、ウサギ類、リス類、ネコ科、げっ歯類等	-	-	-	-	-	○
ニューカッスル病（高病原性ニューカッスル病、低病原性ニューカッスル病）	ニューカッスル病（APMV-1の強毒・中毒株）	パラミクソウイルス科 (Paramyxoviridae)、エイブラウイルス属 (Avulavirus) に属するトリパラミクソウイルス1型 (Avian Paramyxovirus-serotype1) 強毒および中等毒株	鳥類（ガンカモ類、シギチドリ類、ペリカン目、スズメ目、キジ類、ウ、カラス類、ハト類等）	-	家畜	鶏、あひる、七面鳥、うずら	-	○	○
	低病原性ニューカッスル病（APMV-1の弱毒株）	パラミクソウイルス科 (Paramyxoviridae)、エイブラウイルス属 (Avulavirus) に属するトリパラミクソウイルス1型 (Avian Paramyxovirus-serotype1) 弱毒株		-	届出	鶏、あひる、七面鳥、うずら	-	-	-
サルモネラ症（サルモネラ属菌のすべての血清型）（家きんサルモネラ、サルモネラ症、サルモネラ症（羊流産菌）を含む）	家きんサルモネラ症	サルモネラ属菌 (Salmonella enterica) の ・ Salmonella serovar Gallinarum biovar Pullorum (ひな白痢) ・ Salmonella serovar Gallinarum biovar Gallinarum (家禽チフス)	鳥類	-	家畜	鶏、あひる、七面鳥、うずら	-	○	-
	サルモネラ症	サルモネラ属菌 (Salmonella enterica) の ・ 家きん: S. Enteritidis, S. Typhimurium ・ 牛: S. Dublin, S. Typhimurium ・ 豚: S. Choleraesuis, S. Typhimurium	鳥類、哺乳類	-	届出	牛、水牛、鹿、豚、いのしし、鶏、あひる、七面鳥、うずら	-	-	○
	サルモネラ症（羊流産菌）	S. Abortusovis (羊流産菌)	カモシカ	-	-	-	-	○	-
	サルモネラ症 (Salmonellosis (S. enterica, all serovars))	サルモネラ属菌 (Salmonella enterica) のすべての血清型 鳥類 (S. Typhimurium)、鳥類及びげっ歯類 (S. Anatum, S. Newport) など	鳥類、哺乳類 (シカ、イノシシ、げっ歯類等)	-	-	-	-	-	○

*1 家畜：家畜伝染病 届出：届出伝染病

*2 1類：一類感染症 2類：二類感染症 3類：三類感染症 4類：四類感染症 5類：五類感染症 新型インフル等：新型インフルエンザ等感染症

統合・整理した疾病名	個別疾病名	病原体	感染動物	ベクター	家畜衛生		公衆衛生	OIE	
					家伝法*1	対象家畜	感染症法*2	リスト疾病	非リスト疾病
疥癬（キュウセンヒゼンダニ、ヒゼンダニによるもの）	疥癬 (psoroptic mange of sheep)	ヒツジキュウセンヒゼンダニ (Psoroptes ovis)	カモシカ	-	届出	めん羊	-	-	-
	疥癬 (psoroptic mange)	キュウセンヒゼンダニ (Psoroptes spp.)。ヒツジキュウセンヒゼンダニ (Psoroptes ovis) を含む。	シカ、カモシカ、ノウサギ等	-	-	-	-	-	○
	疥癬 (ヒゼンダニ症、S. scabiei)	ヒゼンダニ (疥癬虫、Sarcoptes scabiei)	タヌキ、キツネ、カモシカ、イノシシ、ハクビシン、ノウサギ、アナグマ、サル、シカ、テン、クマ、ムササビ、リス、イタチ等多くの哺乳類	-	-	-	-	-	○
フィロウイルス感染症(エボラ出血熱、マールブルグ病を含む)	エボラ出血熱	フィロウイルス科 Ebolavirus属	ニホンザル、コウモリ、イノシシ	-	-	-	1類	-	○
	マールブルグ病	フィロウイルス科 Marburgvirus属ビクトリア湖マールブルグウイルス	ニホンザル、コウモリ、イノシシ	-	-	-	1類	-	○
	フィロウイルス感染症 (エボラウイルス属、マールブルグウイルス属、クエパウイルス属のウイルスによる)	フィロウイルス科ウイルス (Ebolavirus属、Marburgvirus属、Cuevavirus属のウイルス)	ニホンザル、コウモリ、イノシシ	-	-	-	1類	-	○
肝蛭 (巨大肝蛭、巨大肝吸虫)	肝蛭：巨大肝蛭 (F. gigantic)	巨大肝蛭 (Fasciola gigantic)	イノシシ、シカ	-	-	-	-	-	○
	肝蛭：巨大肝吸虫 (F. magna)	巨大肝吸虫 (Fasciola magna)	イノシシ、シカ	-	-	-	-	-	○
ラセンウジバエ (新世界ラセンウジバエ、旧世界ラセンウジバエ)	新世界ラセンウジバエ (Cochliomyia hominivorax)	新世界ラセンウジバエ (Cochliomyia hominivorax)	主に哺乳類。稀に鳥類	-	-	-	-	○	-
	旧世界ラセンウジバエ (Chrysomya bezziana)	旧世界ラセンウジバエ (Chrysomya bezziana)	主に哺乳類。稀に鳥類	-	-	-	-	○	-
エルシニア症 (腸炎エルシニア症、仮性結核菌感染症)	エルシニア症 (腸炎エルシニア菌感染症。Yersiniosis enterocolitica。人にも感染)	Yersiniosis enterocolitica。	イノシシ、イヌ科、ネコ科、シカ、カモシカ、げっ歯類、霊長類	-	-	-	-	-	○
	エルシニア症 (仮性結核菌感染症。Yersiniosis pseudotuberculosis。人にも感染)	Yersiniosis pseudotuberculosis。	げっ歯類、シカ、鳥類、イノシシ、食肉目 (キツネ)、ノウサギ、霊長類	-	-	-	5類	-	○

*1 家畜：家畜伝染病 届出：届出伝染病

*2 1類：一類感染症 2類：二類感染症 3類：三類感染症 4類：四類感染症 5類：五類感染症 新型インフル等：新型インフルエンザ等感染症

リスク評価において考慮した希少種* 一覧

*希少種は国内希少動植物種を含む環境省レッドリスト掲載種（哺乳類、鳥類）のうち、CR種、EN種、VU種を対象とした。

<環境省レッドリスト カテゴリー概要>

絶滅 (EX)：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅 (EW) 飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)：※絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠA類 (CR)：※ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB類 (EN)：※ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)：※絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT)：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

※絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）

■哺乳類

カテゴリー	目名	種名	学名	国内希少動植物種
CR	食虫目	センカクモグラ	<i>Mogera uchidai</i>	
EN	食虫目	オリイジネズミ	<i>Crocidura orii</i>	
EN	食虫目	エチゴモグラ	<i>Mogera etigo</i>	
VU	食虫目	トウキョウトガリネズミ	<i>Sorex minutissimus hawkeri</i>	
CR	翼手目	ダイトウオオコウモリ	<i>Pteropus dasymallus daitoensis</i>	●
CR	翼手目	エラブオオコウモリ	<i>Pteropus dasymallus dasymallus</i>	●
CR	翼手目	クロアカコウモリ	<i>Myotis formosus</i>	
CR	翼手目	ヤンバルホオヒゲコウモリ	<i>Myotis yanbarensis</i>	●
EN	翼手目	オガサワラオオコウモリ	<i>Pteropus pselaphon</i>	●
EN	翼手目	オリイコキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus orii</i>	●
EN	翼手目	オキナワコキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus pumilus pumilus</i>	●
EN	翼手目	リュウキュウテングコウモリ	<i>Murina ryukyuana</i>	●
EN	翼手目	コヤマコウモリ	<i>Nyctalus furvus</i>	
EN	翼手目	リュウキュウユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuscus</i>	●
VU	翼手目	ヤエヤマコキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus perditus</i>	
VU	翼手目	クビワコウモリ	<i>Eptesicus japonensis</i>	
VU	翼手目	ウスリホオヒゲコウモリ	<i>Myotis gracilis</i>	
VU	翼手目	ホンドノレンコウモリ	<i>Myotis nattereri bombinus</i>	
VU	翼手目	クロホオヒゲコウモリ	<i>Myotis pruinosus</i>	
VU	翼手目	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	
VU	翼手目	モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i>	
VU	翼手目	オヒキコウモリ	<i>Tadarida insignis</i>	
CR	齧歯目	セスジネズミ	<i>Apodemus agrarius</i>	
CR	齧歯目	オキナワトゲネズミ	<i>Tokudaia muenninki</i>	●
EN	齧歯目	ケナガネズミ	<i>Diplothrix legata</i>	●
EN	齧歯目	アマミトゲネズミ	<i>Tokudaia osimensis</i>	●
EN	齧歯目	トクノシマトゲネズミ	<i>Tokudaia tokunoshimensis</i>	●
EN	ウサギ目	アマミノクロウサギ	<i>Pentalagus furnessi</i>	●
CR	食肉目	ツシマヤマネコ	<i>Prionailurus bengalensis euphilurus</i>	●
CR	食肉目	イリオモテヤマネコ	<i>Prionailurus bengalensis iriomotensis</i>	●
CR	食肉目	ラッコ	<i>Enhydra lutris</i>	
CR	食肉目	ニホンアシカ	<i>Zalophus japonicus</i>	
EN	食肉目	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	
CR	海牛目	ジュゴン	<i>Dugong dugon</i>	

■鳥類

カテゴリー	目名	種名	学名	国内希少動植物種
EN	キジ目	ライチョウ	<i>Lagopus muta japonica</i>	●
VU	キジ目	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	
CR	カモ目	ハクガン	<i>Anser caerulescens caerulescens</i>	
CR	カモ目	シジュウカラガン	<i>Branta hutchinsii leucopareia</i>	●
EN	カモ目	カリガネ	<i>Anser erythropus</i>	
VU	カモ目	トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	
VU	カモ目	ヒシクイ	<i>Anser fabalis serrirostris</i>	
VU	カモ目	コクガン	<i>Branta bernicla orientalis</i>	
VU	カモ目	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	
EN	ネッタイチョウ目	アカオネッタイチョウ	<i>Phaethon rubricauda rothschildi</i>	
CR	ハト目	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	●
EN	ハト目	キンバト	<i>Chalcophaps indica yamashinai</i>	●
EN	ハト目	ヨナグニカラスバト	<i>Columba janthina stejnegeri</i>	●
EN	ハト目	シラコバト	<i>Streptopelia decaocto decaocto</i>	
CR	ミズナギドリ目	オガサワラヒメミズナギドリ	<i>Puffinus bryani</i>	●
CR	ミズナギドリ目	クロコシジロウミツバメ	<i>Oceanodroma castro</i>	●
EN	ミズナギドリ目	コアホウドリ	<i>Phoebastria immutabilis</i>	
EN	ミズナギドリ目	セグロミズナギドリ	<i>Puffinus lherminieri bannermani</i>	●
VU	ミズナギドリ目	アホウドリ	<i>Phoebastria albatrus</i>	●
VU	ミズナギドリ目	ヒメクロウミツバメ	<i>Oceanodroma monorhis</i>	
CR	コウノトリ目	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	●
CR	カツオドリ目	チシマウガラス	<i>Phalacrocorax urile</i>	●
EN	カツオドリ目	アカアシカツオドリ	<i>Sula sula rubripes</i>	
EN	カツオドリ目	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus pelagicus</i>	
CR	ペリカン目	オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	●
CR	ペリカン目	トキ	<i>Nipponia nippon</i>	●
EN	ペリカン目	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris stellaris</i>	
EN	ペリカン目	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	●
VU	ペリカン目	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	
VU	ペリカン目	ズグロミゾゴイ	<i>Gorsachius melanolophus</i>	
CR	ツル目	ヤンバルクイナ	<i>Gallirallus okinawae</i>	●
EN	ツル目	シマクイナ	<i>Coturnicops exquisitus</i>	●
EN	ツル目	オオクイナ	<i>Rallina eurizonoides sepiaria</i>	
VU	ツル目	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	●
VU	ツル目	ナベヅル	<i>Grus monacha</i>	
VU	ツル目	マナヅル	<i>Grus vipio</i>	
CR	チドリ目	ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	●
CR	チドリ目	カラフトアオアシシギ	<i>Tringa guttifer</i>	●
CR	チドリ目	エトビリカ	<i>Fratercula cirrhata</i>	●
CR	チドリ目	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	
CR	チドリ目	ウミガラス	<i>Uria aalge inornata</i>	●
EN	チドリ目	コシャクシギ	<i>Numenius minutus</i>	
VU	チドリ目	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus dealbatus</i>	
VU	チドリ目	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	
VU	チドリ目	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica baueri</i>	
VU	チドリ目	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	
VU	チドリ目	アマミヤマシギ	<i>Scolopax mira</i>	●
VU	チドリ目	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	
VU	チドリ目	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	
VU	チドリ目	アカアシシギ	<i>Tringa totanus ussuriensis</i>	
VU	チドリ目	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i>	

カテゴリー	目名	種名	学名	国内希少動植物種
VU	チドリ目	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	
VU	チドリ目	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	
VU	チドリ目	コアジサシ	<i>Sterna albifrons sinensis</i>	
VU	チドリ目	オオアジサシ	<i>Sterna bergii cristata</i>	
VU	チドリ目	ベニアジサシ	<i>Sterna dougallii bangsi</i>	
VU	チドリ目	エリグロアジサシ	<i>Sterna sumatrana</i>	
VU	チドリ目	ケイマフリ	<i>Cephus carbo</i>	
VU	チドリ目	カンムリウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	
CR	タカ目	カンムリワシ	<i>Spilornis cheela perplexus</i>	●
EN	タカ目	リュウキュウツミ	<i>Accipiter gularis iwasakii</i>	
EN	タカ目	イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos japonica</i>	●
EN	タカ目	オガサワラノスリ	<i>Buteo buteo toyoshimai</i>	●
EN	タカ目	チュウヒ	<i>Circus spilonotus spilonotus</i>	●
EN	タカ目	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis orientalis</i>	●
VU	タカ目	サンバ	<i>Butastur indicus</i>	
VU	タカ目	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla albicilla</i>	●
VU	タカ目	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	●
CR	フクロウ目	キンメフクロウ	<i>Aegolius funereus magnus</i>	
CR	フクロウ目	ワシミミズク	<i>Bubo bubo</i>	●
CR	フクロウ目	シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni blakistoni</i>	●
VU	フクロウ目	ダイトウコノハズク	<i>Otus elegans interpositus</i>	
VU	フクロウ目	リュウキュウオオコノハズク	<i>Otus lempiji pryeri</i>	
EN	ブッポウソウ目	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	
CR	キツッキ目	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouei</i>	●
CR	キツッキ目	ノグチゲラ	<i>Sapheopipo noguchii</i>	●
VU	キツッキ目	オーストンオオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos owstoni</i>	●
VU	キツッキ目	クマガラ	<i>Dryocopus martius martius</i>	
VU	ハヤブサ目	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>	●
CR	スズメ目	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	
CR	スズメ目	オガサワラカワラヒワ	<i>Chloris sinica kittlitzii</i>	●
CR	スズメ目	シマアオジ	<i>Emberiza aureola ornata</i>	●
EN	スズメ目	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	●
EN	スズメ目	アカモズ	<i>Lanius cristatus superciliosus</i>	●
EN	スズメ目	ナミエヤマガラ	<i>Poecile varius namiyei</i>	
EN	スズメ目	オーストンヤマガラ	<i>Poecile varius owstoni</i>	
EN	スズメ目	ハハジマメグロ	<i>Apalopteron familiare hahasima</i>	●
EN	スズメ目	ウチヤマセンニュー	<i>Locustella pleskei</i>	
EN	スズメ目	オオセッカ	<i>Locustella pryeri pryeri</i>	●
EN	スズメ目	モスケミンソザイ	<i>Troglodytes troglodytes mosukei</i>	
EN	スズメ目	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>	●
EN	スズメ目	アカコッコ	<i>Turdus celaenops</i>	●
VU	スズメ目	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	
VU	スズメ目	イイジマムシクイ	<i>Phylloscopus ijimae</i>	
VU	スズメ目	タネコマドリ	<i>Luscinia akahige tanensis</i>	
VU	スズメ目	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>	●
VU	スズメ目	オオトラツグミ	<i>Zoothera dauma major</i>	●
VU	スズメ目	コジュリン	<i>Emberiza yessoensis yessoensis</i>	